

世界とつながり活躍する次代のリーダー育成

～中高一貫教育校の特色を活かした教育活動を通じて～

1 はじめに

千葉県立千葉中学校（以下、本校）は、千葉県内初の県立中学校として、平成20年4月、ここ千葉市中央区葛城の地に開校しました。敷地を共にするのは、明治11年8月に千葉師範学校校内に「千葉中学校」として創立した「現千葉高等学校」です。

本校では日々、伝統校である千葉高の「重厚な教養主義」における学びの基礎を作りながら、学力試験を受検して入学してくる生徒たちと共に、学力を高め、豊かな人間力を培い、自分の可能性への飽くなき「挑戦」を続ける力を持ち、志高く、未来を切り拓く生徒の育成を目指し、教育活動を千葉中高全教職員が一丸となって展開しています。

2 本校の教育理念について

本校の教育理念は、「千葉から、日本でそして世界で活躍する心豊かな次代のリーダーの育成」です。「千葉から」には、県内初の県立中学校で学び、郷土である千葉への思いを胸に活躍して欲しいという願いが込められています。「心豊かな次代のリーダー」には、あらゆる人々に共感し、共同し、世の中をより良く変えていく牽引者になって欲しいという期待と、そうした生徒を育成する学校の使命が謳われています。

3 本校の魅力「学び編」 多種多様な学びの場を設定

(1) 総合的な学習の時間「ゼミ」*写真1

大学のような、「ゼミ」を開講し、第1学年から自身で課題を見つけ、その課題に対して探求する力を育てています。第1、2学年は類似する研究テーマごとに異学年でチームを編成し、学び合いながら、研究を進めています。

第3学年は、過去2年間の経験を活かし、「卒業論文」の整え、卒論発表に向けて3年間の集大成をします。



*1 ゼミでの学び



*2 卒業論文発表会にて

(2) 卒業論文発表会 *写真2

例年2月に第3学年全生徒による個人研究の成果をまとめた卒業論文の発表を行っています。研究に係る探求のレベルや研究成果が社会にどのように役立つかはもちろんのこと、そうした研究内容や成果等を他者に伝わるよう分かりやすくまとめ、説明するプレゼンテーション能力の向上も含めて取り組んでいます。

令和2年度の研究テーマの一例としては、「東名高速道路の渋滞を緩和させる」「キャッシュレス化は日本にいい影響を与えるか」「英語アニメは英語学習に役立つか」等生徒の身近な関心事から社会問題まで幅広い研究テーマを持って取り組んでいました。生徒の中には、实地踏査を行ったり、関係諸機関の方にインタビューに出向いたり、決してインターネットで得られる「情報」だけに頼らず、自身で「調べる」という姿が見られました。「学び方を学んでいる」そうした表現そのものでした。

【保護者の声】

「中学生がいろいろなテーマを設定して研究活動を行っていること、そしてその課題意識の高さに驚いた。」という感想をいただきました。

(3) 千葉中アカデミア *写真3

例年3月に第1、2学年全生徒による当該年度の個人研究の成果をまとめた発表会を行っています。体育館等を会場として、互いの発表を聴き合い、評価を行います。

令和2年度の研究テーマの一例としては、「株や投資で必ず儲けることはできるのか」「諸葛亮孔明から学ぶリーダー像」「過疎地域において路線バスは本当に必要か～バスを走らせる利点と欠点～」等、第3学年生徒に見劣りしない研究テーマの数々でした。

こうした学習を通じて、課題発見、探求、解決の道筋を持った学習の機会を設け、聴き合う活動を通じて、コミュニケーション能力や他者意識の醸成を図っています。

本校では、この具現化に向けて授業時間数の確保が課題でした。令和2年度からは7時間目の授業を週に2回実施し、これに対応しています。

【生徒の声】

「授業充実のためなら、この7時間授業も価値があると思います。」「正直、7時間の授業は疲れます。」「7時間授業の日でも、部活がやれるなら問題ないです。」等、入学時に授業時数が多いことを承知しているためか、肯定的な感想が多かったです。



* 3 アカデミアでの代表の発表



* 4 医学部の先生方から学ぶ

(4) 特別授業

本校では、教科を主体として様々な特別授業に取り組んでいます。校外の関係諸機関と連携協働し、テキストだけでは学べないことに直接触れ、生徒の学びの意欲を喚起しています。以下、取組実践をいくつか紹介します。

・理科特別授業 *写真4

約10年に渡り継続していますが、千葉大学医学部の先生方に御協力をいただき、本校を会場として出前授業を実施しています。医師からの講演以外に、アルコールパッチテストやエコー検査の体験等、貴重な学習の機会となっています。本校生徒の中には、将来医師を目指している生徒も多く、そうした生徒への内発的動機付けにも活かされています。

・国語特別授業 *写真5

新聞社の方に来校いただき、インタビューの基礎基本について御指導をいただいています。インタビューにおける訊き方、内容の構成等を学んだ後は、実践編として、本校保護者へのインタビュー活動を行っています。

・社会特別授業

中高一貫教育校の強みを最大限に活かし、中高の教科担任を入れ替えて授業交流を行っています。高校社会科地理担当教諭による校内オリエンテーリング等は生徒たちが校庭を走り回りながら課題を解決しています。

* 5 保護者に →
インタビュー



(5) 中高連携出前授業 *写真6、7

これも中高一貫教育校の強みを最大限に活かした取組になります。令和2年度3学期、第2学年生徒に対して、高等学校の教員による出前授業を実施しました。授業は、国語・数学・英語の3教科による授業実践でした。

また、第3学年生徒は、高校第1学年の授業参観を実施しました。あと2ヶ月ほどで自分たちもこうした千葉高校の授業を受ける、という心構えになりました。

【生徒の声】

「高校の先生の授業を受けることができ、高校入学後はこうした難しい内容を学んだという楽しみな反面、不安な気持ちにもなりました。」「4月からこの教室で生活するという実感が出ました。勉強は中学校以上に大変そうです。」



*6 高校英語科職員中学校出前授業



*7 中学生による高校授業参観

(6) 社会科見学 *写真8

本校の立地を活かし、各学年で社会科見学を実施しています。

1年生は千葉県立中央博物館、2年生は千葉市郷土博物館と国立歴史博物館、3年生は貨幣博物館と東京大学ツアー、等へ出かけています。中でも東大ツアーでは教授の講義を聴講したり、キャンパス内の散策を通じて、東大で学びたい、という意欲を高めてくる生徒が毎年複数名いるようです。



*8 東京大学工学部での聴講



*9 留学生との交流

(7) 校内語学研修 *写真9

第3学年全生徒を対象に校内において英語の語学研修を毎年10月に実施しています。研修内容はその年によって多少は異なりますが、当該の2日間は、通常の授業を一切行わず、外国人講師を複数名招聘し、Only Englishの環境にします。こうした研修を10月に実施し、翌年3月の海外異文化研修に繋げています。

【生徒の声】

「自分の意見を英語で言えるように、もっと英語の練習をする。」「もっとたくさん(英語で)話せるようになりたい。」「Don't be shy. Love mistakes.」

(8) 海外異文化研修(過去2年間未実施) *写真10、11

これは県下の中学校では、なかなか例を見ないと思いますが、第3学年の生徒を対象とし、アメリカのボストンで研修を実施しています。参加希望者を募り、3月に実施している研修ですが、在籍生徒のほぼ全員が参加しています。8泊9日の長期日程により、ハーバード大学での研修、MITでの最先端科学技術に触れる機会、現地大学生との交流など、現地でないとできない研修プログラムを組み、単なる語学研修とはならないように研修の企画運営を工夫しています。

【保護者の声】（令和2年度保護者）

「千葉中の大きなPRポイントの一つだと思います。中止の判断は妥当ではありますが、子どもは残念がっていました。早期に行事が復活することを祈ります。」

【生徒の声】（平成30年度実施）

「高校の授業の様子が日本のそれとはまるで違っていました。生徒が皆、輪になって机を並べ、テーマに対して自分の意見を述べ合っていました。積極的に参加し、自身の意見をしっかりと持っている様子に驚きました。」「高校で現地の授業と一緒に受けました。話している内容は、英語で内容の難しい授業の事柄を説明しているので理解することが大変でした。8割位は聞き取れたことが、自分の英語力の自信に繋がりました。もっと英語の勉強をして、世界の人たちと交流したいです。」



*10 海外異文化研修



*11 現地学校での交流

4 本校の魅力「行事編」 中高一貫校でしかできないことに挑戦する

（1）創造彩「令和2年度中学校文化祭」

令和2年度文化祭は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、残念ながら開催中止となりました。そこで本校では、中学校文化祭実行委員会の生徒が知恵を出し合い、各クラスの劇を動画でまとめて、視聴することを教員に提案してきました。ライブの劇とは違い、発声が無いこと、視聴にあたっては無言を徹底すること等、開催実現に向けて様々な約束事を生徒主体で練り上げました。そうして11月に「創造彩（そうぞうさい）」と題し、中学校単独で開催ができました。

このように現状に対して、安心安全を担保しつつ、開催に向けていかに工夫するか、生徒たちが相談している姿に、頼もしさを感じました。学校評価アンケート結果では生徒の96.2%が充実した行事だったと回答し、昨年度多くの行事が中止となった中で、生徒の充実感や学級への所属感等の醸成に大いに活かすことができたと評価しています。

【保護者の声】

「子どもが生き生きと取り組んでいる様子でした。」 「ぜひ動画をホームページで見られるようにしてほしい。」保護者からの反応も多かったです。これを受けて3年生保護者を対象に卒業式後、試聴会を実施しました。

***12 文化祭での3年生の劇発表**



（2）千秋祭「中高合同文化祭」 写真12

例年9月に中高合同文化祭を実施しています。昨年度は上述のように中学校単独での実施でしたが、今年度は中高文化祭実行委員会がやはり知恵を出し合い、感染症の対策を練りながら、実現に漕ぎ着けました。

千葉高校では、自主・自律の下、企画の段階から、生徒が主体となって考えを交流させ、よりよい行事を作り上げています。こうした過程を中学生にも経験させ、高校入学後に、「内部進学生」として他の生徒をリードできるような存在になって欲しいという願いを込めながら実行委員会を開催しています。

文化祭当日は、中高の演目、出し物をそれぞれが見合い、交流の場となっています。

(3) ①令和2年度中高合同体育大会 *写真13、14

令和2年度は、感染症の対策をよりきめ細やかに実施できるように、多くの職員で連携協働することも含めて、中学生と高校1年生が部分的に体育大会を合同開催しました。

本校としても、千葉高としても体育的行事を4つの学年が合同で実施するのは初のことでしたので心配の声は多くありましたが、ここでも生徒の実行委員会が知恵を出し合い、身体的接触の無い新たな競技種目を考え出し、新しい形での体育大会を具現化しました。参加生徒、教員の感想は以下に紹介しますが、次年度以降に繋がる素敵な行事の一つとなりました。学校評価アンケートでは、「高校生との交流」という設問に対し、保護者好意的回答が前年度比12%も向上しました。公開行事では無かったのですが、生徒が家庭で当日の感想等を話す中で、こうした評価につながったと考えています。

【生徒の声】

「高校生から良い刺激を受けた。」「中高一貫校に所属している実感が持てた。」「来年も中学生と高校生と一緒に取り組む体育大会を企画してほしい。」

【職員の声】

「実行委委員会の活動を通じて、中高生の交流が多くなった。」「高校生が中学生の面倒をよく見てくれていた。」「中高の一体感を感じ、同じ学校であることを再認識した。」



*13 中高合同実行委員会



*14 生徒考案の非接触型の新競技

②令和3年度中高合同体育大会 *写真15、16

前年度の生徒、職員の感想を受けて、今年度は県立青葉の森陸上競技場へ会場を移し、中学生と高校生、合わせて1,200人の合同体育大会が実現しました。体育大会実行委員会が今回も企画・運営に大きく携わり、中高生が一体となり、生徒主体で作り上げた行事となりました。アンケートは今後実施予定ですが、当日の様子からも、感染症に留意し、また熱中症にも対応しながら実施できた体育大会に生徒も職員も充実感があつたと思います。



*15 高校生と共にダッシュ



*16 中高生一緒にゴール

5 中高一貫教育校としての歩み ~課題への対応~ *写真17

本校では、平成28年度から「中高一貫教育推進委員会」を立ち上げています。中高の連携に係る具体的案を検討する部会です。これまでに、中高合同による柔剣道部や文化系部活動の連携や中高教科部会の合同開催・情報交換会等を進めてきました。

しかしながら、学校評価の項目で中高生の交流については、生徒や保護者からもっと活性化してほしい、という要望が多くありました。中高一貫校だからこそできる異学年集団との学習面、行事面、課外活動面等のより一層の連携強化を図る必要があると考えます。

そこで今年度は機動力を伴い、中高推進を一層強めていけるようにワーキンググループを新設しました。WG1では、中高6カ年を見通したスクールポリシーの策定を中心に、WG2では、行事や部活等より生徒に身近な項目を検討しています。

日々、中高職員が一丸となり、千葉中高一貫教育校として、その教育効果を最大限に高め、「自主・自律」「世界で活躍する人材育成」を目指し、心を同じく取り組んでいます。



* 17 情報交換会

* 関係諸機関視察時は、生徒会が中心となり、学校説明を実施
(自主・自律の精神の育成や生徒の自己有用感を醸成する機会)

6 終わりに

本校の学びや行事、そして中高一貫校としての魅力が少しでも伝われば幸いです。

最後に昨年度の本校保健委員会委員長の提案・取組を紹介させていただきます。

本校の近くにある福祉作業所とは、従前から合唱部の交流などが行われてきました。その生徒は感染症拡大の中、マスクがなかなか入手できない状況に対して、作業所の方もきっと困っていると考え、「マスク募集」の活動を始めました。

結果、多くのマスクが寄付され、後日、保健委員会により当該施設への贈呈式となりました。学習面のみならず、何かできる人になろう、という生徒の姿に「心豊かな、次代のリーダー」が育ってきていると感じ、深い感銘を覚えました。 *写真18～20

これからも、中高職員が一丸となり、学校・家庭・地域・関係諸機関と連携しながら千葉中高生のために魅力のある教育活動に邁進する所存です。



* 18 校長先生に出発報告



* 19 委員長から施設の方へ



* 20 贈呈式を終えて

千葉県立千葉中学校の情報発信の取組について

1 情報発信ツールとしての学校ホームページ活用

情報発信ツールとして、活用しているのは、学校ホームページ内の「今日の千葉中」です。



本校ホームページ内の「今日の千葉中」は、その日の生徒の学習の様子や学校行事を本校の保護者や生徒に伝えるだけでなく、本校への入学を検討いただいている御家庭や地域の方等、広く本校の教育活動について御理解をいただけるように内容構成をしています。

その更新頻度は、基本的には1週間のうち半数は、新しい記事を掲載できるように取り組んでいます。

なお、当該ホームページの開設以降、令和3年10月末日現在で、総閲覧数は573,915件になります。毎月、約2万件アクセスがあります。

これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの学校行事や授業参観等、本校保護者や校内限定公開で実施した文化祭で来場する機会が無くなってしまった小学生の御家庭等によく当該ホームページを御覧いただいている結果ではないかと考えます。

まだまだ、感染症拡大については、予断を許さない状況でありますので、こうしたホームページ等を活用して、広く本校の教育実践を御紹介させていただきたいです。

ある日、今年度入学した本校1年生から以下のような話を聞きました。文化祭の一般公開も無く、学校の様子を直接目にすることができなかつた生徒たちの学年になります。唯一、適性検査の前に本校の敷地に入ったのは、入学願書等関係書類を取りに来た時だったとのことでした。

そうした状況の中で、「今日の千葉中」は、学校生活の様子、授業や行事、そしてそこに通っている先輩たちの様子がよく分かる、貴重な情報源だったようです。

また、在校生にとっても他の学年の生徒の様子、高校生の活動等を知ることができるとの感想を聞いたことがあります。

以下、その際のやり取りになります。

【生徒の声】

「小学校の頃から、今日の千葉中、よく見てました。今は、自分たちの生活の様子が取材される側でなんか不思議な気持ちです。(本校1年生)」

「他の学年、先輩の様子が分かって、在校生でも楽しみです。(本校2年生)」

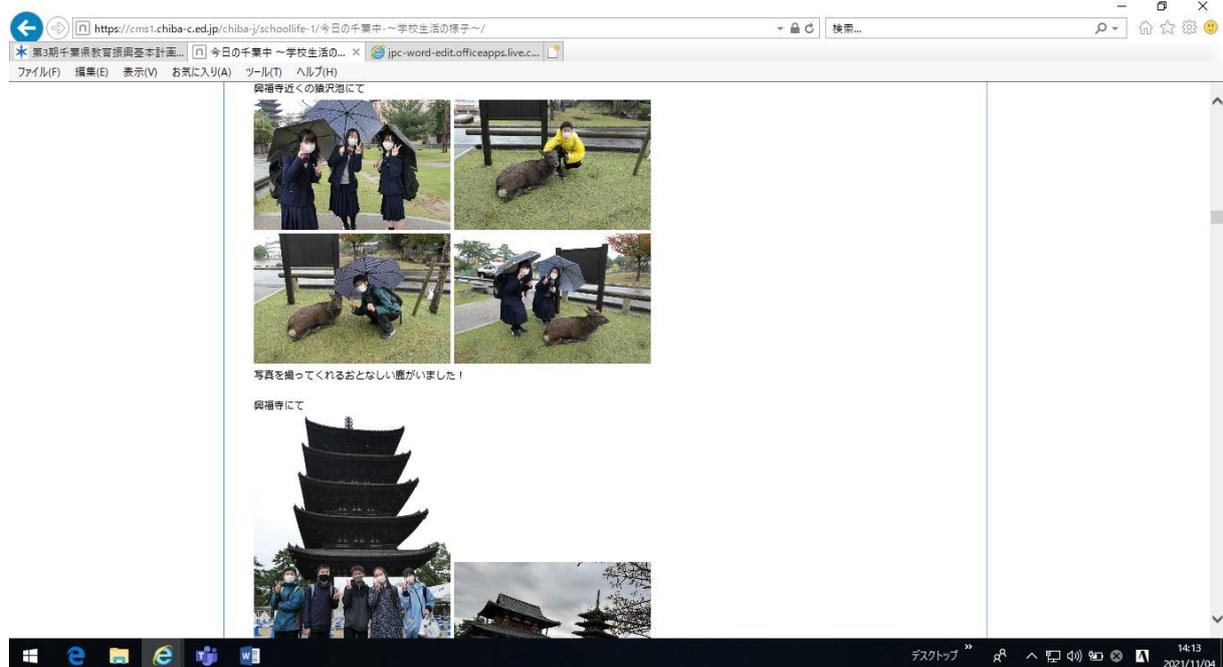
「私が祖母の手作りマスクを、校長先生にプレゼントしている写真を祖母が見て、喜んでいました。(昨年度本校3年生)」

【保護者の声】 (令和2年度学校評価 記述より)

「感染症拡大防止のため多くの行事が無くなり、また、学校を参観する機会もなかなか無いので、こうしてホームページで様子が見えるのは嬉しいです。」

「ホームページ、楽しみにしてます。」

直近の記事で御好評をいただいているのは、令和3年10月24日から2泊3日で実施した修学旅行の特集記事になります。多くの写真を掲載し、充実した様子をお伝えしています。



2 報道状況

(1) 令和3年1月15日(金)

NHK 千葉放送局の取材

令和2年度から県教育委員会の研究指定を受け、ICTを活用した外国語授業改善事業に取り組んでいます。感染症拡大予防のために、英語の授業では生徒同士の対話練習や一斉発音練習等に制限がありました。

本学習ソフトを利用し生徒は、4技能のうち、「話す」活動を授業で主に取り組んでいます。また、家庭でも同ソフトが活用でき、学習の「個別最適化」が図られます。

こうした学習の工夫点を取材いただきました。夜7時の首都圏ニュースで放映いただきました。



英語教科系の生徒にインタビュー



学習ソフトでの学び



授業の様子を取材中



上手に対応していました

(2) 令和3年1月28日(木)

朝日新聞千葉支局の取材

コロナ禍における学校教育現場の現状を取材する、との内容で朝日新聞社から取材を受けました。学校で行っている感染症対策、授業の工夫などを取材いただきました。



英語学習ソフト活用



取材を受けます

コロナ禍の学校 感染対策のいま

英会話はAIと／複数校で時差登校

コロナ禍でも授業が続く県内の各学校で今、どんな対策がとられているのか。デジタル機器を使いこなし学校もあれば、「密」を避けるため複数の学校で協力するケースも。一方、部活動は大会中止となる種目も出ており、不安をにじませる部員もいる。

県立千葉中学校（千葉市）では、昨年4月、飛沫防止の観点から、生徒が2人1組で英会話をするスタイルをやめた。

現在、英会話の相手はタレット端末に内蔵されたAI（人工知能）だ。道案内などの日常会話を、まるで人と話しているかのように英語でやりとりできる。



タブレット端末のAIと英会話をする生徒たち。1月28日、千葉市の県立千葉中学校



マスクを着け筋トレに励む、千葉南高校のラグビー部員。1月27日、千葉市の千葉南高校

に対する評価がわかりやすいのが利点。みんな格段に発音はよくなっている」と一定の効果を感じている。各高校でも対策が進む。いずれも県立の茂原、茂原樟陽、長生の3校は、多くの生徒が通学でJR茂原駅を利用するため、始業時間を利用するため、始業時間をずらした。県立千葉西

大会中止の部活動も

部活動は大きく制限された。県教委は1月6日、活動は放課後90分間までとし、対外試合は禁止にするよう、各県立学校に通知。休日の活動中止や飲食時の会話禁止も求めた。

県高体連によると、既にバスケットボールとホッケーの県新人大会の中止が決まった。「総合的判断」（県高体連）という。ほか、1月以降に予定されていたサッカーやラグビーなど7種目の県新人大会は、緊急事態宣言解除後に開催できるか検討中という。

部活動は昨年も県高校総体など多くの大会が中止に追い込まれた。千葉南高校のラグビー部の主将河野泰斗君（2年）は「去年のように大会が無くなってしまうんじゃないかと不安をのぞかせる。体を密着させるタックルやスクラムなどの対人練習は控え、マスクを着用して筋トレなどの基礎メニューに取り組んでおり、「大会がある」と信じて気持ちだけは「プシュー」と話す。

「実践的な練習ができないことから、顧問の為成淳広教諭は「練習不足で試合を再開すればケガのリスクは高まる」と危惧する。マスク着用のうち、クッションを使ったタックル練習をするなど工夫を重ねるが、「感染症対策と安全なプレーを教える練習をどう両立するのか。ずっと悩んでいる」と話す。（寺沢知海、高峯尊子）

© 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。